【北海道新聞・日刊留萌新聞・羽幌タイムスに掲載されました】

6月14日(木)、3学年が主権者教育の一環として羽幌町議会を傍聴しました。事前学習として政治経済の授業で地方自治に関する知識を確認してから、町議会を傍聴しました。小型風力発電施設や旧宮坂デパート問題など、身近なことについての議論を熱心にメモに書き留めていました。事後指導ではアンケートを用いて振り返りを行いました。生徒からは「今までは、政治についてあまり興味がなかったし関係のないものだと思っていたが、これからは選挙権が持てる年齢になるので、自分の考えをしっかり持ち、政治について関わっていきたい」といった感想がありました。

【羽幌】羽幌高(宮下裕

心に耳を傾けた。

<北海道新聞>

加校長)の3年生40人が14加校長)の3年生40人が14年年齢が18歳に引き下げられたのを受け、主権者教られたのを受け、主権者教られたのを受け、主権者教育の一環として地歴公民科育の一環として地歴公民科育の一環として地歴公民科の政治経済の授業の中で初めて実施した。
この日は定例会初日で議る小型風力発電施設や旧宮る小型風力発電施設や旧宮る小型風力発電施設や旧宮る小型風力発電施設を出りながら熱

野宮友樹さん(打)は「納まり良い対応を求めているのが伝わった」。宮崎巧さん(打)は「秋に18歳になるん(打)は「秋に18歳になるが有権者の実感はまだない。新聞を読んだりして地い。新聞を読んだりして地い。新聞を読んだりして地い。新聞を読んだりして地い。新聞を読んだりして地い。当世に関心を持ちたい」と話していた。

羽幌高生町議会に興味津々

「地域の課題 関心持ちたい」



の生徒たち羽幌町議会の一般質問を傍聴する羽幌高

<日刊留萌>



聴いた、羽幌町議会の ろう。いい場面を見た、 りとりに驚いたことだ 町長との迫力ある、や 寺光一議員と駒井久晃

萌振興局から略式代執

てきたが、このほど留 管理が最善策と強調し

を考える」と、煮え切ら どうか検討する必要性

言は重い」と訴えた。

行による除去について

うのはポーズだけに聞

することを考えるとい ない。小寺議員は「検討

評価を新たにしたと思

の財源捻出は交付金、 報告があった。ネック

特別交付税でかなり軽

すると言えないのか」 こえる。前向きに検討 は、国会の予算委員会

た羽高三年B組の生徒 主権者教育で傍聴し

十二月定例会でも様々

さて、旧宮坂ビル、

手続が必要だが、住民

特定空家にするための

外

野

席

らば、持ち出しは減る。 応分の負担を求めるな 減、加えて北海道にも

と食らいついた。

にも匹敵するような小

ものの、一貫して事後 は場当たり的と言える な議論があったが、町

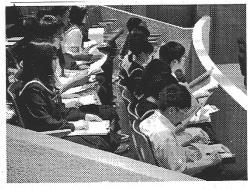
しかし、町は「可能か

が開けた。

危険から守るための道 や通学の子どもたちを

町民の立場で質問、関心高まった 羽高三年生が定例会を傍聴

【羽幌】羽幌高校(宮 | 下裕加校長)の三年生



悩み持つ他自治体との けたのか、同じような かる町長答弁、いつど 会での旧宮坂ビルにか 問は十五分延長して四 こで弁護士に指導を受 時間を上手に使い、余 「町長の責務、一言、一 れる過去の発言を追及、 十五分、質問者は概ね とに整合性が疑問視さ 相談など、議事録をも このほか、十二月議 今定例会から、再質 うだ。外野席はまだよ に順番つけるなよ、と 詰めた議論が必要のよ 言いたい。これについ まちの課題、国が勝手 地域振興は従来からの く分らない。人口減や の、議会と行政の突き ち切りは、金木議員に ければと正直に思う。 すでに走っているもの 裕さえも見られた。 は寝耳に水、青天の霹 ては阿部議員に学ばな 阿部議員の地方創生、 リフォーム制度の打 とや、余裕のある人を ことを認めた。打ち切 たいとの意向があった 町長も担当課から続け かのニュアンス、駒井 りがこもっていた。常 **塵か。珍しく言葉に怒** りの理由は一部業者に 任委員会では継続する 少し時間がほしい」と 再質問で「(再開まで) を受けてのことらしい。 優遇する制度との指摘 しても辞退者がでるこ 仕事が集中して、当選

A、B組それぞれ二十 般質問を傍聴した。 羽幌町議会定例会の インダーを手に、席に 施設、野宮友樹くんは 雄議員の小形風力発電 ついた。午前は逢坂照 一人がメモをはさむバ 午前、午後に分けて

使できる。前回の平成 ているが、投票日に十 十一日生まれ、今年秋 得は出来なかったが、 八歳であれば権利を行 に町長選挙が予定され るのがよく分った」 長も答弁し、完全に納 してくれた。町長、課 よりよい町を求めてい 宮崎功くんは十月三 のに時間がかかるかも は独特の言葉、表現も 習で小形風車を学んだ 治への関心が高まって きた感じ、だんだん政 ったよう」と率直な感 あんまり練っていなか トライクの問題など、 しれないが、バードス あって「まだ理解する そうで、対応策の議論 きた」。二目前に環境学

が主権者教育で十四日、 一管理委員会で決定する は九月定時登録の選挙 二十六年の町長選は十 一月九日だった。日程

想を述べた。